

# 月刊 新翔タイムズ

第93号  
新翔タイムズ  
編集室  
発行・熊野新聞社

## 第9回卒業式 将来に向け歩む決意



冷え込みが舞い戻りつつも晴天に恵まれた3月1日(火)、体育館にて第9回卒業証書授与式を挙行了。新翔高校第7期生130人(男子60人、女子70人)が永石校長より卒業証書を授与され、3年間ともに過ごしてきたこの学舎を巣立って行きました。式では学校長からの式辞、教育委員会、育友会はじめ来賓の方々からのご祝辞、生徒会長2年池尻君の送辞などを受け、卒業生代表開口ななさんが、周りの人達への感謝を込めて将来に向けて歩み出す決意を答へ、また式辞、皆勤賞をはじめ各種表彰も行われ、それぞれ壇上で晴れ晴れしく賞状を授与されました。



閉式後には恒例となつたスライドショーが上演され、卒業生の新翔高校での3年間の思い出を振り返りながら、卒業生、在校生、保護者、教職員が最後の特別な時間を共有しました。

## インターンシップの成果報告

### 「産業社会と人間」発表会



■代表発表者(実習先(敬称略))

- 【1組】 後藤海月 (olive) 山本純華 (勝浦認定子ども園)
- 【2組】 岸谷 滯 (ナリス化粧品デ・アイム) 坂本千賀 (キッチントムトム)
- 【3組】 左畑有崇 (ホームセンターダイキ) 兼本志絵里 (香梅堂) 伊藤菜那 (三輪崎保育園)
- 【4組】 岡 大輔 (スーパーセンターオークワ) 後藤 杏実 (レモンの部屋)
- 【5組】 丸亀弘希 (航空自衛隊) 南 零二 (田中建設)

3月15日(火)、1年生「産業社会と人間」の授業で1月に取り組んだインターンシップ活動のまとめの学年発表会をキャリア実習室にて行いました。各クラス代表者計11人が、1月に3日間行ったインターンシップの職業体験のまとめのレポートを作文形式で発表。それぞれが体験した職業のたいへんさ、面白さ、むずかしさなどを11人の発表を通して学年全体で共有しつつ学習の振り返りとまとめを行いました。

## 休憩時間中に大地震!

### 第2回防災避難訓練



本日午前、本年度2回目の防災避難訓練を行いました。午前10時44分に震度6弱、マグニチュード9.1の地震が発生したと想定、生徒達は、休憩中の教室、廊下、トイレ、グラウンド、特別教室等からそれぞれが個別に避難し、10時35分にブール横避難場所に全員が避難を完了しました。休憩時間中の避難訓練



実施に戸惑った生徒もいたようですが、避難時の鉄則「お・は・し・も」(押さない・走らない・しゃべらない・もどらない)をおおむね実践できていました。避難場所集合後、校長先生からの講評では、東日本大震災の教訓からわかれが学んだ津波避難の三原則(想定にとらわれない)「最善を尽くす」(率先避難する)も紹介され、自助の大切さを確認しつつ、改めて全員が防災意識を高めることができました。

### 「知・徳・体」の成長を 平成27年度修了式

3月24日(木)、平成27年度修了式を体育館にて行いました。本年度最後の校歌斉唱に続いて、永石校長先生からの式辞では、卒業式に始まる年度末の各行事を振り返りつつ、改めて「知・徳・体」のバランスのとれた成長を、「将来の自立をしっかりと見据えた」「現在の熱いがんばり」を、といった年度末のまとめの言葉が述べられました。また式後には、先月の校内マラソン大会で8位までに入賞した男女各8人ずつが校長先生より賞状とメダル、記念品を授与されました。生徒指導アセンブリーでは春休みの生活の諸注意に先立ち、西村部長より、太平洋戦争時、特攻隊員へのその献身ぶりから「特攻の母」と呼ばれた鳥濱トメさんの話を引き合いに、学習を積み自分の将来を見据え自分自身を鍛えることの大切さが説かれました。一人一人全員が節目の式を通してそれぞれの一年を振り返りつつ、新しい年度に向けての準備期間に入りました。



## OBも貴重な意見 進路説明会



3月18日(金)5、6限に1、2年生全員を対象とした進路説明会を校内各会場で行いました。就職希望者合わせて140人(1年生69人、2年生71人)は体育館とキャリア実習室両会場を県下5企業、事業所様(ライオンケミカル(株)様、ライオンアカデミー様(株)、トヨタ自動車様、新宮信用金庫様、社会福祉法人紀友会特別老人ホーム日好荘様)より講師を派遣していただき、貴重なお話を伺いました。新翔高校OBの方



## ユネスコと世界遺産作文審査

昨年の1年生対象「ユネスコ講座」を受けて応募した作文審査で、本校から川上優介君、後藤杏実さん、井筒幸菜さんの3作品が優秀賞に選ばれ、本日表彰が行われました。



### それぞれの受賞理由(講評より)

- ▽川上優介君「講演を聞いて」  
ユネスコの理念「心の中に平和の砦を」考えを十分に受け止めながら、現在の世界の状況や若者の教育環境に論を進め、祖父の話を想起して、戦争の誤り、平和の大切さ、勉強ができる喜びを語っている点、最後に負の遺産に言及している点などが評価されました。
- ▽後藤杏実さん  
戦争が起こるメカニズムを人間の欲望と捉え、その欲望の生み出す怒りや不満こそが元凶であると論じています。そしてそうならないための人々の協力、助け合い、均衡がユネスコの言う「心の中の平和の砦」と述べています。無知や偏見による戦争を防ぐユネスコの機関としての重要性についても述べられている点が評価されました。
- ▽井筒幸菜さん  
ユネスコの主要な活動である世界遺産の保全と継承の意義を確認しつつ、負の遺産についても考えを及ぼしています。戦争が起こる原因を考えながら、人間にとっての教育や知識の大切さが述べられています。さらに中学校時代の修学旅行で訪れた沖縄でのガマの体験について触れつつ、いかに平和が必要であるかという平和への強い切望によって文章が貫かれています。